

第5次総合計画基本構想改定案に修正の動き

杉本議員など3議員が基本構想で総括質疑

12月定例市議会が28日から始まっています。初日は市長の提案理由の説明の後、総括質疑が行われました。登壇したのは市民クラブの田村恒夫議員、日本共産党議員団の杉本敏宏議員、市政会議員の矢野学議員の3氏（登壇順）。3氏が共通してとり上げたのは第5次総合計画基本構想における新市の将来都市像、合併での思いを込めた新市建設計画の将来都市像と違ったものを提案した市長をきびしく追及しました。しかし、市長は譲らず、新たな将来都市像にこだわりました。このため、市議会のいくつかの会派が共同して修正案を出そうという動きが強まってきました。以下は、杉本議員の総括質疑の一部（大要）です。

【杉本議員】「新市建設計画で掲げた将来都市像を」という声が強く出されている中で、この都市像にこだわった理由は何か。今、将来都市像を変える理由は何か、明らかにしてほしい。

【市長】先の9月定例会における一般質問の際にもお答え

いたしましたとおり、第5次総合計画の改定に当たっては、合併後の上越市が初めて策定する総合計画として、合併後の市を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、今後の地域経営の理念やまちづくりの方向性が明確なメッセージとして伝わり、広く市民の皆さんから共感いただける将来都市像を掲げたいと考えましたことから、新市建設計画の理念を踏まえつつ検討が行われてきたものであり、本年8月に総合計画審議会から改定案を答申いただいたところであります。私は、これまでの検討経過を踏まえ、改定案の内容と将来都市像の意味するところを確認し、さらに、新市建設計画の将来都市像に込められた思いを、総合計画の将来都市像の中で改めて確認するため、本計画の中でも重要な



理念の一つとして位置付けた「共生」を加え、「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 共生・創造都市 上越」を将来都市像として提案いたしましたものであります。

いずれにいたしましても、新市建設計画と、その将来都市像は、何ら位置付けを変えることなく存在するものでありますことから、改定後の第5次総合計画と新市建設計画をもつて、今後のまちづくりを進めてまいりる所存であります。

【杉本議員】子育て世代から分担金を徴収することは、子育て支援に逆行してはいないか。

【市長】通園バスについては、地域によって児童の保護者が利用せざるを得ない状況にあることを十分踏まえた上で、一部の利用される皆さんに対する事業となっている点も考慮していかなければならないものと考えております。当市におきましては、「次世代育成支援のための上越市行動計画」に沿って様々な子育て支援施策を推進しており、子育て家庭の経済的負担の軽減には最大限努めているところであります。通園バス運行事業につきましても、利用者となる子育て世代に十分配慮した負担額としており、当市の推進する総合的な子育て支援に決して逆行するものではないことを、ご理解いただきたいと思います。

【杉本議員】利用する人と利用しない人の平等性というのはおかしい。例えば、幼児医療費助成制度について、利用する人としらない人との平等性ということが言えますか。合併によって新たな制度にする場合、大事なものはどのように子育て支援を充実させていくかです。

党議員団の一般質問予定

【杉本敏宏議員】（12番目、6日午後登壇予定）

1. 国民健康保険税について
国の責任で国保税の引き下げを。
2. ゴミ減量に努力した人を褒賞する制度の創設を。
3. 並行在来線の存続にむけた取り組みについて。
北陸新幹線・並行在来線問題連絡会の「より便利、より安全で、快適な並行在来線のための10原則」をどう考えるかなど。

【橋爪法一議員】（16番目、7日午後登壇予定）

1. 高齢者などの運転免許証更新について
柿崎区の交番または試験場でも更新手続きを。
2. 雪対策について
除雪格差が生じかねない除雪体制をどう見ているかなど。
3. 介護施設労働者の労働条件改善について
市内施設での介護労働者の実態はどうなっているかなど。

【樋口良子議員】（18番目、7日午後登壇予定）

1. 最終処分場の整備候補地について
当市にとって、最も重要な観光・文化資源がある春日山地域に整備するのは好ましくないと思うがどうか。
2. 要援護世帯の除雪支援について
3. 高齢者外出支援助成事業について
事業の効果をどう認識しているか。対象者の要件を拡充すべきではないか。

日本共産党上越市議員団ニューズ

118	2007年12月2日
連絡先 杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
樋口良子	544-6802 (中門前3)
橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長 上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)